勝つ

●未来に向かって限りなく前進

太陽②

減反・石油ショックが経営翻弄

爪メーカーが団結

70年のコメの本格的減反政策で150万トンの生産調整が行われ、農機メーカーは大打撃を受けた。耕うん爪でも乱売合戦に突入。乱売の異常事態を打破するため72年に太陽と小橋工業、小野製作所、笹岡鉄工（現ササオカ）の爪メーカー4社が大同団結し、爪の適正価格と安定供給を目的に日本ブレードを設立した。

日本ブレードの設立から1年後の73年に第一次オイルショックが襲った。オイルショックは産業界を翻弄したが、農機業界にとっては食糧危機のムードが高まり、日本の農業が見直されるきっかけとなった。

かんばん方式導入、経営改革

部署、次々経験

農機や耕うん爪は仮需要が起き、太陽鍛工（現太陽）でもフル生産が続いた。しかし、このオイルショック後の反動で過剰在庫を抱えることになった。耕うん爪専業から独自製品を拡大する経営改革に乗り出さざるを得なくなった。こんな78年に現社長の久松朋水が大学を卒業し、太陽鍛工へ入社。朋水は「社長である父にすべてを預けたが1年ごとに目まぐるしく部署が変わった」。人が3年でやることを1年で終わらすため夢中で働いた。

最初は外注先管理へ配属となった。2、3年目には同社が引き受けたウナギ加工会社に管理部長として出向。「電話1本で何千万円の契約をする世界で相場色が強かった。わが社の社風に合わず1年で撤退したが、いい勉強をした」（朋水）という。

再び太陽鍛工に戻った朋水はコンピューター導入と顧客間のオンライン化を担当。「現状業務をシステムに組み込むかどうか、イエスかノーの答えをはっきり出さなければならない。そのために現場の声をよく聞いたのが、会社全体を把握する貴重な経験になった」（同）。ちょうどこの時期、29歳で結婚。休日も関係なく夜中まで働く夫に妻もあぜんとしていた。

父は素晴らしい人材を残してくれた…と久松社長

副社長が社長昇格

86年に太陽に大きな分岐点が訪れた。食道がんのため社長の潤一郎が65歳で急逝。その時、朋水は33歳で太陽の取締役だった。潤一郎の後の太陽の新社長に島崎龍昭副社長が、太陽鍛工の新社長に山田通副社長がそれぞれ就任した。

公職の多かった潤一郎は両副社長に経営の一切を任せており業務に支障はなかった。ほどなく両社の副社長に就任した朋水は「父から『生産と財務は山田に、営業は島崎に習え』と言われていた。素晴らしい人材を残してくれた」と感謝の念を露わにする。

中でも山田からはトップ交代1年前から同じ部屋で製造のノウハウを伝授された。東海理化専務だった山田は潤一郎の旧制高知市立高知商業学校の同級生。80年に太陽鍛工の副社長として三顧の礼で迎え、太陽にトヨタ生産方式を取り入れムダの排除活動に取り組んでいた。（敬称略）

田中

航空・宇宙分野向け攻勢

プラズマ浸炭処理を充実

田中（大阪市住吉区、田中信一社長、06・6672・3701）は、国内外で航空宇宙向けボルトの受注活動を本格化する。プラズマ浸炭処理装置が三菱重工業から特殊工程装置の認定を受けたほか、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の国際宇宙ステーション「きぼう」棟でも同社のチタンボルトが採用されたため。この実績を武器に攻勢をかけ、08年11月期に同部門の売上高を1億円強と現在の3倍を目指す。

「きぼう」にチタンボルト

田中はプラズマ浸炭処理、プラズマ窒化処理、真空熱処理の3技術を差別化の戦略分野に据えている。米航空機大手メーカーから86年にチタン合金ボルトの耐摩耗・耐かじり性向上の要求を受けたのをきっかけに、大阪府立産業総合研究所などの指導を受けて約20年間、同技術の確立へ取り組んできた。チタン合金やステンレス合金の表面を改質するSDCプラズマ浸炭処理装置を子会社・エスディーシーの堺工場（堺市堺区）で小型から大型まで3台そろえ、本格生産への対応が可能になった。

航空・宇宙分野はコストや納期だけでなく、品質管理や保証面で納入先との信頼関係が不可欠。三菱重工業から認定を受けたことで川崎重工業や富士重工業、ナブテスコなど他の大手からも認定を受けやすくなる見込み。これに加え宇宙で稼働中の「きぼう」で同社の部品が使われたことで「単なる採用と違い、実稼働で問題ないことが確認された」（田中弘一会長）という。

田中は大阪府の中小企業で構成する、次世代型航空機部品供給ネットワーク（OWO）の主力メンバー。

新工場、7月に操業

西中製作所　液晶・太陽電池関連増強

【鹿児島】西中製作所（鹿児島県霧島市、下村吉文社長、0995・46・1556）は26日、鹿児島県霧島市と立地協定を結ぶ。液晶関連や太陽電池製造装置、自動車関連装置などの受注増に対応して同市に組立工場を新設、本社機能も移転する。4月に着工し7月に操業予定。投資額は約2億5000万円。初年度の生産計画は約3億円を見込む。

新工場は鉄骨平屋建で、敷地面積は約7500平方メートル。建物面積は約1400平方メートル。液晶関連や太陽電池製造装置、自動車関連装置を組み立てる。設備は大型クレーンや準クリーンルームを設置する。新たに地元から20人採用する。

デジタル機器関連部品受注増　内野ケルンの新工場10月操業

【鹿児島】内野ケルン（鹿児島県出水市、内野正社長、0996・67・1012）は26日、鹿児島県出水市と立地協定を結ぶ。デジタル機器関連部品の受注増で同市の沖新工場を建転する。4月に操業予約2億3000010年126億円を見

新工場はで、敷地面000平方は約200ジタル機器関連部品、製造する。

マシニンど工作機械導入し、地用する。

岐路に立つ商工会議所

130年目の選択③

大阪商工会議所

環境貢献モノづくりを振興

中堅・中小・ベンチャー

会員数の回復

8月に設立130周年を迎える大阪商工会議所の現在の一番の課題は、3万会員の回復。96年10月に4万7000だった会員は現在、2万9503に減少。「あれば便利ではなく、なくてはならない経済団体」（野村明雄会頭）を目指して、10ある支部活動の強化や、職員の企業訪問に拍車をかける作戦だ。

大商は明治維新の改革で打撃を受け衰退した大阪経済の振興を目的に、大阪府知事の認可を得て1878年（明11）8月に大阪商法会議所（大商の前身）として設立された。初代会頭となった五代友厚ら15人の有志が連署、嘆願し実現した。

会議所は国策の諮問答申、同業組合づくり、貿易振興に尽力し、地域経済発展の礎を築いた。その伝統は脈々と引き継がれ、政府に政策提言する数少ない会議所として存在感を示してきた。

三つのエンジン

その大商が会員獲得の切り札となる独自事業で力を注いでいるのが、大阪経済の新成長戦略「大阪賑わい創出プラン」の推進。新しいモノづくり、ツーリズム、ライフサイエンスの三つを地域経済をけん引するエンジン産業と位置づけ、05年4月から51項目の第1次アクションプラン（3年間）に取り組んだ。

中でも新しいモノづくりでは、06年から松下電器産業など関西の大手家電・IT企業16社が内外のベンチャー企業などから事業提案を受け、関西から未来型情報家電の商品化を目指す事業をスタート。これまでに6カ国から71件の提案を受けるなど、大きな成果につながる可能性が強まっている。

08年4月からは新規八つを含む34項目の第2次アクションプランを実施する。注目を集めるのが環境貢献型モノづくり産業の振興。太陽電池や住宅など関西・大阪の産業集積とその省エネ・創エネ技術を生かし「カーボンニュートラル」なモデルオフィスや工場・店舗の創出、普及を目指す。

存在感

4月にもシャープ、大和ハウス工業、大阪ガスなど関連大手10社程度による研究会を設置し、課題抽出と事業推進策の検討に入る。09年度には中小企業を巻き込んだプラットフォームを構築し、先行モデルの開発にこぎ着ける方針。

少子高齢化、資材高騰など企業を取り巻く環境は130年前とは大違い。どう大商の存在感を維持していくか。野村会頭の手腕に注目が集まる。

未来型情報家電の商品化を目指す会合で熱心に話し込む参加者▲……

テラス

日曜相から月国民公

国民生活月6日から を実施する「ナ え、月2 実施する。 宿支店内 ビジネス ザ」。

4月6 日、6月 で、時間は と13―15時 3・334 へ。

儲けの

ーム（東 上野保社 合先の営 対、読ま と推薦文 「もっと ほしい」 でノウハ

▽…機 メーカー 経営コン て活躍中 演・セミ から自身 ぼ。